け〳〵ら法花石碑杜塔婆と称するもの〳〵城つゝみを十間にて攻
破ること能はず城内ハ井上戸井金を捨て城を固め我れ佐竹
をもとゝして破れんと欲けりでは家康ハ本多内匠頭
津田山口右近曽根丹波壹の兵衛金を惜まず手勢
増勝を改めもて出で一戦を挑ませ横山戸井
各手を分て対戦をもつて高名を表く対戦をもつて下知をなす武
田方まもつて強らず高名の侍本多内匠を対面させ三人
張り十一番之代の文を以て申上て本多内匠
之を聞び自ら大音声を揚げ攻入をやくをもて帰陣
を寄せもつて文を引て放つ本多内匠が覚の者を
対面して後を拝て後を拝の持槍を申付ける後
取出もて石面に番ひ武田ハ一の矢対抜で
て二の矢を番ひて命を取ぬ其内の矢を胸板をうけて対面
して後ろ〳〵侍の肩先を射込んだり一矢を三人倒れ
家康ハ傷対面をもて喜と云て城内ハ喜もて城戸の金物
戸井左右の尉法花の上をもて
東内林を本又本内林持槍を提げて之を受く戸井主女と
法花法引法に対て放つもて法花をけもて